

11月15日（木）「人生の達人セミナー」挨拶

「私は、どう生きるのか」を考え続ける

日本のことわざに「転石苔を生ぜず」、つまり「転がっている石には苔がつかない」ということわざがあります。もともとは英語のことわざを日本語に翻訳したものです。元祖である英語のことわざにはイギリス式とアメリカ式の二つの解釈があります。「転石苔を生ぜず」をイギリス式に解釈すると「行動を軽々しく変える人や仕事を転々とする人は結局成功しない。」という意味です。一方、アメリカ式に解釈すると「時代に合わせて柔軟にかつ積極的に行動している人は、沈滞することなく失敗も避けることができる。」という意味です。同じことわざですが、このように相反する2通りの解釈があります。従来、日本の解釈は、どちらかと言えばイギリス式の解釈に近いと思います。

私は教員になって30年になります。私は教職という一本道を歩んでいる人間です。イギリス式の解釈に近い人生です。これからご講演いただく早野忠昭先生は、アメリカ式の解釈に近い人生を送られている方だと思います。どちらの人生が良いか、悪いかではなく、成功か失敗かでもありません。100人いれば100通りの生き方があります。自分はどう生きるのかを考えるきっかけにして欲しいと思います。

80年前、吉野源三郎さんが『君たちはどう生きるか』という小説を書かれています。昨年、そのマンガ版がベストセラーとなりました。私も読みましたが、そこには「こう生きなさい」という答えが書いてある訳ではありません。「どう生きるか」ということを自分に問い続けることの大切さが書かれていました。生徒のみなさんと同世代の主人公は物語の最後に「僕たちは自分で自分を決定する力を持っている」ということに気づきます。

そして、原作の小説もマンガも最後は次の言葉で締めくくられています。

「みなさんにおたずねしたいと思います。君たちは、どう生きるか」

それでは、本日の講師であります、早野忠昭先生のご紹介をいたします。経歴などについてはご自身でお話をされると思いますので、簡単にご紹介いたします。早野先生は口加高校を昭和52年3月にご卒業です。正門を入れてすぐ左手に全国優勝した部活動や個人を顕彰する銅板があります。その1枚に早野先生の記録があります。昭和51年8月に長野市営陸上競技場で開催された第29回インターハイにおいて、陸上800Mのチャンピオンです。記録は1分53秒6と刻まれています。現在、世界にはワールドマラソンメジャーズという6大マラソンがあります。ボストン、シカゴ、ニューヨークシティ、ロンドン、ベルリン、そして東京マラソンです。早野先生は東京マラソンの事業担当局長、東京マラソンレースディレクターでいらっしゃいます。また国際陸上競技連盟のロードランニングコミッションの委員でもいらっしゃいます。本日は「変化を恐れず挑戦していく力」と題してご講演をいただきます。それでは、早野忠昭先生、よろしくお願いいたします。